

令和4年度 学校評価報告書 **実施結果**

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月28日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>自立と社会参加をめざし、カリキュラムマネジメントの視点を踏まえ、小・中・高一貫した教育課程の編成と、わかりやすい授業づくりに取り組む。</p>	<p>① 学習内容一覧表や各学部、分教室での学習のまとめを活用し、学部を超えた共有を図り、小学部から高等部まで12年間の系統性・連続性について意識した授業づくりに取り組む。</p> <p>② 社会に開かれた教育課程編成の実現に向け、地域資源を活用した教育実践をまとめた「モデルプラン」の策定につなげる。</p> <p>③ わかりやすい授業の実践に向け、授業のユニバーサルデザイン(UID)化を進めている良い実践について、学部を超えて情報を共有する。</p>	<p>① 学部を超えて情報共有をするための討議や他学部の授業参観の機会を設けることや授業の中で職員一人ひとりがより長期的な視野をもって授業づくりを行う。</p> <p>② 将来構想チームと各学部と連携し、外部と連携しながら展開している教育活動を、系統的、発展的につなげていくために必要な条件を整備する。</p> <p>③ 校内の良い実践に関する情報を、学部を超えて共有し、学びあうための仕組みを作る。</p>	<p>① 学部を超えた視点を持つことや、系統性・連続性を意識した学習内容を盛り込んだ授業を計画し実践することができたか。</p> <p>② 現在実践している活動を、小・中・高一貫した視点から、「モデルプラン」としてまとめることができたか。</p> <p>③ 校内で、他学部の実践について情報を共有することができたか。</p>	<p>① 学部内教科会を中心に他学部体験や学部内の情報共有等を通して、他学部他学年の情報を得ながら、教科担当としてより良い授業づくりに取り組むことができた。</p> <p>② 清掃活動について他学年や他学部での取り組み内容や工夫などを共有し、実際に全体共有会で映像を見合うことができた。</p> <p>③ 今年度は「他学部体験」として計画した。20名の希望があり、交換を基本にコーディネートして実施した。自分自身の授業や指導を改めて考える契機となった。</p>	<p>① 学部学年によって児童生徒の実態も担任団の状況も様々だが、今後も教科会を中心として内容や工夫点を共有しつつ学部としてより良い授業づくりに取り組んでいく。</p> <p>② 今後も系統性・連続性を意識した学習内容を盛り込んだ授業を計画していく必要がある。</p> <p>③ ある程度、校内で他学部の実践について情報を共有することができたが、日常的に他学部の良い実践に触れ、参考にしてユニバーサルデザイン化を進めていく必要がある。</p>	<p>・各学部分教室、各チームの取組みは評価できる。組織として実施し、個々の組織だけではなく、全体を俯瞰し振り返り、4年間の目標を確認しながら進めてほしい。</p> <p>・学校が社会から求められていることが変わってきている。「児童生徒の社会生活とは何か」を十分考え、ニーズを的確にとらえ、児童生徒の実態と生活年齢に合わせて教育実践をしてほしい。</p> <p>・保護者アンケートでは通学支援に関して高等部のSB利用に複数意見をいただいた。</p> <p>・ICT機器の導入について、全児童の7割程度整備されていて、個々の実態に合わせてアプリの活用、オンライン授業も実施しており、それに対する需要が広がっていることについて評価できる。</p>	<p>学部研究の成果を踏まえ、小学部入学から高等部卒業までの系統性や連続性を意識した授業づくりについて理解を深めることができ、いかに実践につながるかが今後の課題である。</p> <p>清掃活動について、他学年や他学部での取り組み内容や工夫などを共有することができた。違う教科や活動についても学部ごとの取り組みを共有する必要がある。</p> <p>「他学部体験」が授業づくりや授業改善について、改めて考える契機となったことを踏まえ、さらに発展させていく必要がある。</p>	<p>卒業までの12年間の系統性・連続性を意識しながら、ライフキャリア教育の視点を持って、今、身につけさせたい力を、確認しながら授業実践をしていく。</p> <p>それぞれのライフステージでの留意点、工夫すべき点を共有し、学習内容の整理を行い、本校の地域性を踏まえ、系統的に地域資源を活用した教育実践につなげていく。</p> <p>教科会や、GL会等において、他学部の授業見学や体験が気軽にできるようなシステムを改善し継続して実施することで学校全体の授業力の向上を図る。</p>
2 児童・生徒指導・支援	<p>チーム支援の視点を重視し、児童・生徒個々の教育的ニーズを適切に把握し、「主体的に学び行動する力」を育成する指導・支援を組織的に行う。</p>	<p>多面的な実態把握を重視し、客観的なアセスメントの活用をさらに進め、結果を個別教育計画に反映させる取り組みを、校内のチームで推進する。</p> <p>また、児童・生徒の実態に即したアセスメントの実施に向け、情報収集を重ねる。</p>	<p>多面的な実態把握に向けて、客観的なアセスメントを継続して行い、活用時期や活用方法について検討を重ねる。</p> <p>また、児童・生徒の実態に即したアセスメントの実施に向け、情報収集を重ねる。</p>	<p>客観的なアセスメントの活用について、個別教育計画作成に係る年間計画のサイクルの中に位置づけることができたか。</p> <p>客観的なアセスメントに関する新しい情報を収集することができたか。</p>	<p>毎年の個別教育計画に反映できるようなアセスメントの実施時期を検討した。また、学年ごとに補助シートについて検討し共有した。</p> <p>学年ごとの補助シートや「目指せ満点社会人への道」、応用行動分析を活用したアセスメントの情報を共有できた。</p>	<p>実態把握を個別教育計画に反映させる方法について、学部学部内でもより一層、共通認識ができるとう良い。</p> <p>アセスメントの種類や時期、内容を再検討しつつ、引継ぎ資料を作成し、次年度の計画や授業づくり、指導につなげていく。</p>	<p>・指導へのヒントとして、例えば、SM式社会能力検査などには限界があり、独自のチェックシートを作成する傾向は以前からある。作っては壊しの繰り返しとなっている。何をもって社会参加とするかの判断が難しい状況になっている。継続して、改良を加えてほしい。</p>	<p>今年度は、客観的なアセスメントのスタンダード化に向けて、議論を重ねてきた。今後は、具体的な実践に向けて取り組む必要がある。</p> <p>アセスメントツールの有効活用については、次年度以降、実践を深めながら、学校全体の授業力向上につなげていけるようにしたい。</p>	<p>客観的なアセスメントについて、学部内で共通認識を持ち、結果を踏まえてケース会を実施し、個別教育計画に反映していく。</p> <p>アセスメントの有効性について検証を続けつつ、定着したアセスメントは次年度の計画や授業づくり、指導に継続して活用する。</p>

令和4年度 学校評価報告書 **実施結果**

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月28日実施)	総合評価(3月17日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援 一人ひとりの将来の自立と社会参加のあり方を見据え、発達段階とライフステージに沿った進路指導・支援を組織的に行う。	個々の自立と社会参加のあり方についてキャリア教育の視点を重視し、個別の重点課題と各教科の目標とをリンクさせて指導・支援に取り組む。	教育活動全体全般において、個々の将来の自立と社会参加に向け、成人年齢引き下げを考慮し、卒業後の社会生活を見据えた、自己決定、自己選択を促す指導を展開する。	教育活動全般において、個々の自己決定、自己選択を促す教育環境を設定し、より実践的な指導を展開することができたか。	さまざまな場面で自己選択・自己決定を意識した授業や活動を実践した。選挙体験学習や模擬投票では地域の方にご協力いただいたり、地域の施設を活用したりするなどして、より実践的な指導を行うことができた。	今後も引き続き、卒業後の生活を見据え、自己決定、自己選択を促す指導を展開し、自立と社会参加という視点を意識した指導・支援に取り組む必要がある。	・厚労省障害雇用部会において、現在の障害者雇用率が2.3%から2025年には、2.7%に引き上げられる。神奈川県下の特別支援学校の就職率は、コロナ前34%、現在28%、東京都は、44%→48%。神奈川県は努力しなければいけない。	自己選択・自己決定を意識した授業や活動を実践した。今後は、選挙体験学習や模擬投票のみならず、地域との協働や、地域の施設の活用を積極的に取り入れ、より実践的な指導を行うことが必要である。	最新の移行支援に関する動向等についての情報収集に努める。学校運営協議会の委員からの意見も求めながら、引き続き自立と社会参加という視点を意識した指導支援に取り組む必要がある。
4	地域等との協働 共生社会の実現に向けて、地域におけるセンター的機能を継続するとともに、コミュニティ・スクールとして地域との協働による教育活動を展開する。	地域と学校をつなぐ窓口としての拠点を整備し、授業実践をとおして、その活用についてさらなる検討を進める。	地域との協働の在り方や、その拠点となる、F棟、G棟の整備及び活用を推進するために、全校職員が実践例に関する情報を共有し、新たな提案を行う。	F棟及びG棟の改装後の活用方法について、校内で意見集約を行い、実際に活用を推進させることができたか。	活用に向けてG棟内のロッカーを整理、移動などの整備を行い今後の方向性について検討することができた。また、今年度からの新たな取り組みである地域との協働計画「にんにく計画」の取り組みについても全校で共有することができた。	短期的な目標、中長期的な目標に分けて整理し、F棟及びG棟の整備計画、活用方法について、校内で幅広く意見集約を行い、実際の活用につなげていく必要がある。	・「にんにく計画」への参加をはじめとする学校との協働、交流は、地域の学校にとって、とてもわかりやすく、大変有意義であった。今後は、個別支援級との交流も増やしていきたい。海軍道路への桜の植樹の活動の一環として、学校にも苗木を植えらえるようにしたい。	G棟内の整備を行い今後の方向性について検討することができた。また、「交流フェスティバル」が3年ぶりに開催された。今年度からの新たな取り組みである地域との協働計画「にんにく計画」についても全校で共有することができた。	F棟及びG棟の整備や活用について、将来構想チームを中心に検討し、実際の活用につなげていく。 「にんにく計画」や「交流フェスティバル」等を契機に地域との協働をさらに発展させていく必要がある。
5	学校管理 学校運営 すべての教職員が、教育課題を適切に把握し、解決に向けて組織的に対応していくことのできる学校体制を確立する。	教職員一人ひとりが課題意識を持ち、組織的対応を意識して課題解決に主体的に取り組む。 特に、本校での教育実践を保護者や地域に向けて適切に発信できるよう努める。	様々な教育課題に対して、グループやチームで合意形成をしながら積極的に改善提案ができる仕組みを作り、業務改善につなげる。 日々の教育活動を単に「コロナ前」に戻すのではなく新たな教育活動を組織的に展開できるよう取り組む。	課題解決に向けて、既存の方法にとらわれず、柔軟かつ組織的に対応することができたか。 新たな教育活動の展開に、組織的に取り組むことができたか。 ホームページ等を活用し、地域に向けて情報を発信することができたか。	業務改善シートを活用し、各グループ、チームにおいて、組織的対応を意識して、個々の課題や業務の改善につなげることができた。 Withコロナ、Afterコロナを意識し、コロナに左右されない教育活動を展開することができた。 支援学校としての学校の様子を、地域に向けてわかりやすく発信していく必要がある。	引き続き、どこで、誰が、どのように課題改善に向けて取り組むのかを明確にし、組織的に課題改善を行うシステムを定着させることが課題である。 コロナの分類が、5類相当に変更されることを踏まえ、持続可能な教育活動の展開に取り組んでいく。 ホームページの内容の充実と更新の頻度をアップしていくかが課題である。	・学校予算、学校施設及び設備等の管理、および整備について、よくわかった。 ・来年度の学校全体の目標と各学部・グループの目標設定の際にも、相互の関連性について関係職員で議論の上、設定できるとよい。 ・保護者対象の学校評価アンケートを実施する際に、補足の写真資料をつけてもらったので、回答がしやすかった。	GL会がまとめ役をしている「よりよい学校づくり、業務改善に向けた提案」のシステムを活用し、業務改善に結び付けることができた。 Withコロナ、Afterコロナを意識し、コロナに左右されない教育活動を展開することができた。 支援学校としての学校の様子を、地域に向けてよりわかりやすく発信していく必要がある。	組織的に業務改善、課題改善を行うシステムを定着させ、個人ではなく、チームで取り組むことを再確認する。 今後の学校運営については国、県の動向や通知等を踏まえつつ、ICT活用などを取り入れ効果的な展開を検討していく必要がある。 ホームページを充実させるなど地域の関係機関に積極的に発信し支援学校としての姿勢を説明していく。